

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	安芸高田市立吉田小学校		
学校長氏名	平川博秀	栄養教諭氏名	山本陽子
職員数	22名	児童・生徒数	349名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

食に関する指導については、全ての教育活動の中に計画的に取り入れているが、発達段階に応じた指導ができるよう、実施時期や内容を検討し改善を行う。

児童は給食の時間や食に関する指導の時間を楽しみにしているが、食事のマナーを守ることや、栄養を考えて苦手なものを食べることに對して課題がある。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

望ましい食習慣の形成を図ることを目標として、食育を充実させる。

目標達成のためには、年間指導計画に基づいた食に関する指導を行う。また、その様子を通信等で知らせることを通して家庭への啓発を行う。

評価指標【食育アンケートにおける肯定的評価】目標値 85%

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ）教科等における食に関する指導の充実に向けた取組について

食に関する指導を年間計画に基づいて行い、9月には食育参観日を実施した。全学年で食に関する指導の授業を行い、保護者の方にも学校の食育を実際に参観していただいた。

- 1年生 きゅうしょくだいはっけん
- 2年生 やさいってすごい！
- 3年生 おかしの国へようこそ
- 4年生 朝ごはんて元気！～みそしるでパワーアップ大作戦～
- 5年生 食べて元気！
- 6年生 まかせてね今日の食事

【取組 2】（テーマ）つながる食農教育（郷土の食材や料理に関心をもち、調理して食べよう）

つながる食農教育では、学年のつながり、家庭とのつながり、地域の方とのつながりを大切にしながら、体験的に食について学べるよう取組を進めている。内容に応じて、吉田高校の生徒や食生活改善推進員、JAの方などと連携し指導していただく。

- 1年生 しばもちづくり（6年生にプレゼント）・おにぎりづくり（家族とのつながり）
- 2年生 トマトをそだてる（ピューレやジャムに加工しておいしいピザをつくる）
冬野菜（大根とチンゲン菜）をそだてる（吉田高校と連携、大根のみそ汁試食）
- 3年生 みそづくり（4年生からみそ玉のみそ汁を試食させてもらい意欲付けにする）
- 4年生 みそ玉づくり（朝食に温かいみそ汁を！昨年度、仕込んだみそでみそ玉づくり）
*4年生のみそは、調理実習などの機会に学校のみんなでいただきました。
- 5年生 バケツ稲づくり（育てた米で1食分の食事づくり、2年生のトマトと4年生のみそを使用）
- 6年生 毛利元就の食事を作ろう（郷土料理を通して食事の基本やマナーを身に付ける、4年生のみそを使用）

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

児童の給食委員会で、ひろしま給食100万食プロジェクトの応募に取り組んだ。給食委員会では毎日の給食放送で地場産物の紹介をしているので、献立作成することでより意識を高められればと考えた。

家庭や地域でひろしま給食を知っていただき、「つくった」人が増えるよう、調理実習のメニューにひろしま給食を取り入れた。地域の「親子料理教室」と5年生の「JAモリモリごはんスクール」でタコタコライスとひろしまフルーツぷるるんゼリーを教えていただいた。教えてくださった地域の方にもひろしま給食が好評だった。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

計画的に食に関する指導を行った結果、昨年度末から給食の残食量が減ってきた。児童の委員会活動での呼びかけを継続して取組んだことや、1年生を重点的に給食時間の指導を行ったことが大きな成果をあげたと考えられる。

また6年生では食に関する実態調査で「朝食を毎日食べている児童」が増加、「自分で食事をつくることのできる児童」が増加している。4～6年生では「主食・主菜・副菜がそろった朝食を食べることは大切なこと」「野菜を食べることは大切なこと」と答えている児童が99%であった。

【課題】

「毎日朝食を食べている児童」「嫌いな食べ物が出た時、残さず食べる児童」「いただきます・ごちそうさまの挨拶をする児童」は4⇒5⇒6年生と学年が上がるにつれて減る傾向にある。朝食の大切さや、バランスよく食べることの重要性、感謝の気持ちを忘れずに食事することができるように、給食の時間や食に関する指導の時間に引き続き指導していく。

「食事のマナーを守る」ことについては、調査の結果では気をつけている児童が多い。しかし実際の給食の様子を見てみると、箸の持ち方や姿勢など気になる児童が多いので、給食時間を中心に指導する。

6 今後の取組に向けた改善方策について

つながる食農教育を年間計画に位置付け、他の教科や活動とのつながりも考えて実施していけるように工夫する。学校での食育をできるだけタイムリーに見ていただいて、家庭でも取組をつなげていただけるように掲示物や通信を作成する。